

教育長室からのお知らせ No. 103（令和6年2月）



教育長 田中 康史

1年で最も寒い時期に咲く梅の花がほころび始め、春に一步ずつ近づいていることを実感しています。2月も暖冬傾向が続く見込みとのことですが、朝晩は冷え込みます。受験生にとっては最も大切な時期を迎えますので、気温差や感染症で体調を崩さないよう、学校でも健康管理に配慮するとともに、提出書類の作成に当たっては万全の注意を払ってまいります。

1月24日（水）に塩焼幼稚園で公開研究会が開かれました。「『一人一人が夢中になって遊ぶための教師の援助を探る～幼児の主体的な姿をめざして～』〈学び（育ち）の連続性を意識した保幼小連携〉」を研究テーマに、3年スパンでの取組の1年目として公開保育や研究報告などが行われました。私自身は他の公務の関係で残念ながら参加することができませんでしたが、参加した職員からは、子どもたちの生き生きとした活動が素晴らしかったと報告を受けました。また、全体会では、幼稚園教職員、保育園職員、また小学校の教員がグループになりディスカッションする場が設けられ、大変有意義な意見交換が行われたとのことでした。保幼小の連携が重要であると認識しながらも、なかなか連携が深まらない、浸透していかない現実があると感じています。今回の研究会のようにお互いの教育を見て話し合う場が非常に重要であると思います。幼稚園でも、まさに「個別最適な学び」が実践されており、塩焼幼稚園の研究テーマの「遊ぶ」を「学ぶ」に置き換えれば、今後小中学校で取り組んでいきたい学びの姿になります。就学前の子どもたちの学びと育ちが連続性をもって小学校に引き継がれるよう、関係部署・関係機関との連携に努めてまいります。

さて、先月の定例教育委員会会議において、令和6年4月から5年間を対象とする、第4期市川市教育振興基本計画を策定しました。そこで、本計画に込めた思いを皆さんにお伝えしたいと思います。本市では、全市立園・学校に学校運営協議会を設置し、家庭・学校・地域の協働により子どもの成長を支えています。市川の教育に関わる方々が同じ方向を目指して、今後、さらに教育政策を着実に進めることができるようにするため、本計画では新たに、「市川の教育の目指す姿」を2つ掲げています。1つ目は、「互いに認め合い、自分の思いを実現できる子ども」です。一人ひとりが自律的に行動し、想像力（創造力）を発揮しながら多様な人々と協働して正解のない問題に対応できる力を育てたいと考えています。2つ目は、「誰もが幸せを感じ、ともに学び支え合う、家庭・学校・地域」です。人々が支え合いながらともに学ぶことを通じて、家庭・学校・地域が幸せを感じられるようにしたいと考えています。そして、これらの目指す姿を実現するため、基本理念は、これまでのものを引き継ぎ、「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」としました。施策としては、特に、すべての子どもの確かな学力の育成に力を入れて取り組んでまいります。社会の変革は速度を増しています。子どもたちの生きる力を確実に育むためには、多様な人々との関わりの中で子どもたちを育むことが必要です。保護者や地域の皆様におかれましては、未来の社会の創り手となる子どもたちのため、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

今年度も残り2か月となりました。2月は逃げる、3月は去ると言います。3学期が終わる頃、子どもたちが、「この先生に出会えて良かった」「このクラスで良かった」「この園・学校で良かった」と、充実した学校生活を過ごしたと感じられるよう、各園・学校では、1年の総まとめの時期を1日1日大切にしていきたいと思います。